

=====
ふくしま

2015. 9. 3

復興支援フォーラムニュース No. 101

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)
=====

仮設住宅の実態について

鎌田 光 利 (大玉村安達太良応急仮設住宅自治会長)

- ① 自治会設立について
- ② 発足後の自治会の役割
- ③ 仮設住宅での高齢者の見守り
- ④ 入居者同士のコミュニティ作り
- ⑤ 復興公営住宅の要望
- ⑥ 仮設入居から4年 仮設住宅の現状

第98回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

8月20日、第98回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

斎藤隆夫氏（福島県巨樹支援協議会事務局長）から、「震災被災者の住宅再建支援と高齢者等の地域見守り」をテーマに、報告をいただきました。

28名が参加して、熱心な質疑応答が繰り返されましたが、終了後、会場で提出していただいたご意見等は、以下の通りです。参考にしてください。

~~~~~

★ 住宅・居住の問題は、まさに人権問題であることが分かりました。被災者も高齢者も住宅の確保が緊急課題であり、個人の責任ではなく、公的かつ住民協同の方法で解決しなければならないと思いました。（T.S）

★ これから全国で進行する高齢者の住宅問題が、福島で、原発災害を機に一気に進んだことがよく分かりました。見守りのネットワークを確立することを通じて、高齢者がより住居を確保しやすくするように、貢献したいと思います。（T.M）

★ 大変密度の高いご報告で、教えられることが多かったが、内容が豊富すぎて消化不良の感が強い。報告を2回に分けるか、スクリーン投写分を資料にしてもらうとよかったかもしれない。講師の斎藤さんがどんなに、復興に重要で大きな役割を演じていたかを教えられた。この災害時に貴重な人材を得ていた。住宅の問題が、いかに多面的、多角的な領域・問題とかがわって複雑な様相を帯びているかを考えさせられた。（S.I）

★ 自主避難者が戻ろうと思っても、壁が厚いという点は盲点でした。これまで全く関心のない分野なので、よい勉強になりました。（K.M）

★ 知らないことが多くありました。特に仮設や公営住宅のシステムや問題点など、いろんな事を知れてよかったです。私の友人で、そうまで津波にあい、住宅問題をかかえている人がおり、改めて、居住支援協議会の話をしたと思いました。（T.G）

★ 福祉は「住まい」が基本といわれます。公営住宅、公営福祉施設が必須と思いました。行政では建築、福祉が一体となって、事にあたるべきと感じました。（M.T）

★ 震災等による被災者（特に高齢者）の住宅確保等に関する相談支援機関の活動の実態（公的機関の連携等）が、よく分かりました。（K.F）

★ 住宅の問題は生活の根幹にかかわる重要な問題であることを、改めて強く考えさせられました。（H.T）

★ あまり多くの課題が積算されていて解決の道のは大変なものかと。しかし、本日の参加の方々より、高齢者等の見守りと居住との密接な関係性を理解された、気づいたとの意見を伺い、このような機会の多く必要性を感じました。（K.N）

★ 福祉医療と密接にかかわりあいのあった住居の問題との連携の必要性が、あらためて認識しました。(J.M)

★ 福島からの情報発信・教訓発信という問題意識から、今日まで活動を続けられたことに敬意を表します。今日の話は、誰にでも起こり得る事と感じました。(Y.I)

★ 少子高齢社会に起こるべき問題が、原発事故後の福島内部で一気に明らかになった。しかし、今もって未来へ伝えるべき知見の轡にならず、場当たりの対応によって解を手に入れ、みがきあげ、後世に伝えるしかない。共同体のあれこれ、語り合う場づくりを誰が担うのか？その不在も明らかになった。(T.S)

★ 衣・食・住のうち、住は最もお金がかかり、生活する上で基本のキをなすものだと思います。それが、震災・原発事故で大きく揺らぎ、現場での問題、トラブル、過去の震災の教訓が、なかなか活かされていない現状等、詳しく分かりました。(N.O)

## 第98回ふくしま復興支援フォーラムの感想に寄せて

齋藤隆夫（福島県居住支援協議会）

居住支援協議会の取り組みをご紹介する機会をいただき、ありがとうございました。

また、沢山の感想をいただき、関心の高さが伺えて嬉しく思っています。拙い説明に加え住宅と福祉の課題ですので、専門用語も多く理解しにくい内容だったかも知れません。感想に、消化不良とのコメントもありましたが、当方がお伝えしたいことを欲張って盛り込んでしまい反省しきりです。また、借り上げ住宅のアンケート報告と提言をじっくり読みたいのでPPT資料が欲しいとの声もいただきました。報告書の内容は、当然のことながら現制度の欠点指摘や改善要望が多く、どうしても行政の施策や姿勢に対する批判、批評の色が濃くなってしまい誤解を招く恐れがあります。提言につきましても、私個人の独断と偏見、さらには実現性に疑問符が付くものもあると思っています。しかし、是非お伝えしたいことでしたので、敢えて「私見」として説明しましたが、資料としてお渡しすることは控えさせていただきましたのでご理解願います。

また、質疑や感想の中に、公的賃貸住宅が少ないのではないかとのご意見がありました。まさにご指摘のとおりであり、「居住福祉」を提唱しておられる神戸大学名誉教授の早川和男先生は、日本の公営住宅について、「西欧諸国と比較できないほど少なく、収入が増えると退去を迫られる。民賃は家賃が高く、狭小な家なら家賃相当でローンが組める。が、欠陥住宅を掴まされた挙げ句ローン地獄にはまる。日本の住宅政策が市場原理中心となっていることが問題だ。貧困な居住条件は人々の心身を破壊するだけでなく、その社会的費用もはかりしれない。住居に不安がなければ人は何とか暮らせる。医療や福祉に掛かる費用はその都度消えるが、優良住宅という『医療福祉資源』は、整備されれば次世代に引き継がれ暮らしや健康を支える社会資本になる。」と仰っています。私は、かつて公営住宅にお世話になりましたが、子供心に有形無形の差別を感じたことがあり、その後県職員となって住宅施策に関わった経験から、公営住宅は差別住宅だとの意を強くしています。（H8までは、1種、2種の区分があるもっと差別感のある制度でした。）

公的賃貸住宅が数多く整備供給され、施策対象の範囲がもっと幅広ければ安心居住の確保に繋がりますし、居住に係る差別感も少なくなることは明白です。平成15年に遡りますが、県議会で「本県の公営住宅は民業（賃貸住宅経営）を圧迫している。」との指摘から県営住宅のあり方を見直すことになり、結果、その後の公営住宅供給にブレーキがかかったまま現在に至っています。謂わば、「大家が困っているから公営住宅はいらない。」とのロジックで、当時、味方のはずの上司から「住宅は男の甲斐性だから・・・」などと言われて愕然とした記憶があります。

一方で、近年の高齢者等安定居住に係る不動産事業者との意見交換などでは、「行政が引き受けない人達を民間に押し付けている。」との指摘があり、居住のセーフティネットになるべき公営住宅が、その役割を果たせていないことが露呈しました。あの時の議論は何だったのか、あの時、公営住宅の必要性について、どうしてもっと頑張れなかったのかと怠惰な自分に反省と後悔の念を抱いておりましたが、3.11以降その思いをより強くしています。今回、このような発言の機会をいただき、被災者の住宅再建支援のみならず高齢者等の安定居住に対する理解が深まることで課題改善への足掛かりとなり、また、いつかどこかで必ず発生するであろう災害時の対応に、少しでもお役に立てればと願うものです。

終わりに、ふくしま復興支援フォーラムが間もなく100回を迎えますこと、今野先生始め関係の皆様の本県復興への熱い思いとその取組に、心より敬意を表する次第です。

齋藤隆夫（福島県居住支援協議会）

~~~~~  
【予告】第100回フォーラム 2015年9月17日（木）18:30～20:30

「復興の現段階と今後の課題」（仮題）

報告者：真木 実彦 氏（福島大学名誉教授）

齊藤 紀 氏（医師）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1
~~~~~

（目標の第100回の開催に漕ぎ着けました。本フォーラムは震災の年の2011年11月29日に第1回として開始して以来、4年近く、毎月2回の定例会を継続して参りました。

市民的協働による復興を目指して、各界のご活躍の皆さんからの実態に基づくご報告は、復興を大きく支援するものと考えています。

今後は、定例的な開催は困難なため、随時、必要とされるテーマについて、開催していくことにしたいと思っています。今後とも、皆さまのご協力をお願いします。）